

介護施設におけるCOVID-19（または疑い） 認知症高齢者のせん妄、行動・心理症状対応フローチャート

予防的介入

- ・ 認知症高齢者はすべてせん妄ハイリスクとみなして予防的に介入する
- ・ 以下の取り組みはBPSD（行動・心理症状）の一部も和らげる効果が期待できる
 - 脱水の予防 発熱や咳、気道分泌物、苦痛など不快感の緩和
 - 便秘対応（排便の確認と便通コントロール）
 - 視聴覚異常の補正（眼鏡や補聴器の使用、耳垢除去）
 - 現実見当識訓練（頻回な声かけ、スタッフ写真やポスターの掲示など）
 - コミュニケーション（タブレット端末などの活用） 一人で取り組める活動の提供
 - 環境作り（センサーマットやモニターなどによる行動把握、気に入っている音楽を流す）
 - 睡眠覚醒リズムの正常化（夜間は暗く静かに、日中は昼寝を避け明るい光を浴びる）
 - 活動（日中の活動を促し、1日数回の身体活動）
 - ゾーニングでは行動可能エリアを広めに設定し安全に行動できるよう配慮

評価

- ・ 定期的な評価によるせん妄の早期発見、早期対応に努める
- ・ BPSD・せん妄の発症や増悪など病状変化時や、明らかに意識状態がおかしい、手足の動きがおかしいなどの場合には速やかに医師に相談する

せん妄症状のチェックポイント（これらを日々確認し、普段の様子と比較する）

見 る	<input type="checkbox"/> ボーットしている	<input type="checkbox"/> もうろうとしている	
	<input type="checkbox"/> 今までできていたことができなくなる	<input type="checkbox"/> 体を起こしたり・横になったり、同じ動作を繰り返す	
話 す	<input type="checkbox"/> 視線が合わずに、キョロキョロしている	<input type="checkbox"/> 周囲の音やスタッフの動きに気をとられる	
	<input type="checkbox"/> 質問に対する反応が遅い	<input type="checkbox"/> 焦燥感が強く、落ち着かない	<input type="checkbox"/> 目がギラギラしている
	<input type="checkbox"/> 話しが回りくどく、まとまらない	<input type="checkbox"/> つじつまがあわない	<input type="checkbox"/> 感情が短時間でころころと変わる
聞 く	<input type="checkbox"/> 何度も同じことを聞く	<input type="checkbox"/> 話に集中できない	<input type="checkbox"/> 質問と違う答えが返ってくる
	<input type="checkbox"/> 見当識障害（急に出現する場合）：今日の日付や時間を聞く		
	<input type="checkbox"/> 近時記憶の障害（急に出現する場合）：「ごはんのメニューを覚えていますか？」		
確 認	<input type="checkbox"/> 思考のまとまりづらさ：「ボーットしたり、普段と比べて考えがまとまりにくいことがありますか？」		
	<input type="checkbox"/> 日内変動や数日での変化：症状の出現や以前との様子の変化を周囲から聞く、記録を確認する		
<input type="checkbox"/> 昼夜逆転の有無を患者に直接聞く、スタッフに確認する			

対応

- ・ 予防的介入に挙げた取組を継続する
- ・ 家族に対し、利用者の生活状況や介護方針など丁寧に説明する

身体拘束

- ・ 適切な治療・ケアを実施しても症状がコントロールできず、他者への感染リスクが避けられない場合、もしくは興奮や暴力などの激しい症状によって患者自身の生命または身体が危険にさらされる可能性が高い場合、身体拘束を考慮
- ・ 人権に配慮して実施、手続きを遵守し、記録を残す